

今年の夏、来年度から使う中学校教科書が採択されます

子どもたちによりそう先生・学校の意見の尊重を 2011年の採択では学校現場の声は反映されなかった

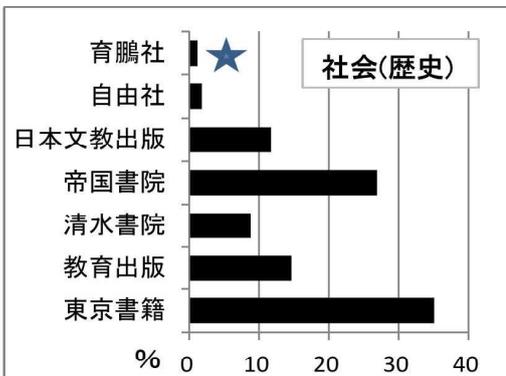
2011年採択「教科用図書調査書」で育鵬社に○は歴史2，公民0(ゼロ)

社会(歴史的分野)

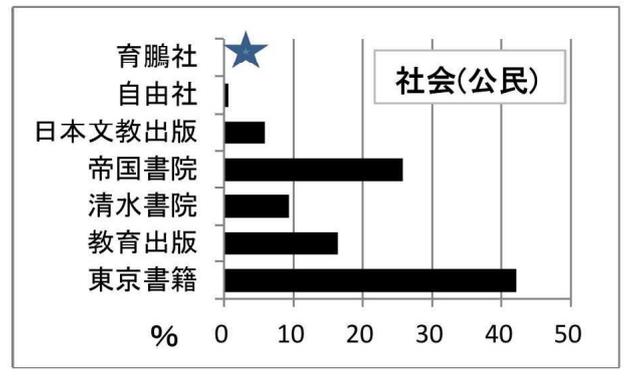
発行 の調査・研究 の観点	1 編集の趣旨と工夫	2 学習指導要領との関連	3 内容	4 構成・分量・装丁	5 表記・表現	6 別の教科・科目 の観点			9 本校の子どもの実態から	学校 による評価の 総計
						①	②	③		
						7	8	8		
育鵬社	1						1			2★
自由社	1				1				1	3★
日本文教出版	2	4	3	1	3	2		2	3	20
帝国書院	7	5	4	6	4	6	7	5	2	46
清水書院			2	3	4	2	1	1	2	15
教育出版	2	3	4		3	3	4	4	2	25
東京書籍	6	7	6	9	4	6	6	7	9	60

社会(公民的分野)

発行 の調査・研究 の観点	1 編集の趣旨と工夫	2 学習指導要領との関連	3 内容	4 構成・分量・装丁	5 表記・表現	6 別の教科・科目 の観点			9 本校の子どもの実態から	学校 による評価の 総計
						①	②	③		
						7	8	8		
育鵬社										0★
自由社										1★
日本文教出版		1	1	2			3	2	1	10
帝国書院	6	7	3	5	3	5	5	5	5	44
清水書院	1		3	3	5	1		2	1	16
教育出版	5	4	3	1	3	6	3	1	2	28
東京書籍	7	6	9	8	8	7	8	9	10	72



前回2011年教科書採択での教科用図書調査書の集計結果。
 ★が採択された教科書。学校現場の声とはかけ離れた結果だった。



教科用図書調査書は、各中学校が教科書を9つの観点で調査研究し、観点ごとに1校が1つの教科書に○を付ける形で作成しています。1教科ごとの○の総数は、19校×9観点で171になります。これは、日々子どもたちと学びをともにしている学校現場の意見を映しています。

☆☆☆グラフの横軸は%で、171(19校×9観点)に対する割合を表しています。☆☆☆
 ※表とグラフは、「みんなの教育・ふじさわネット」が情報開示請求で得たデータをもとに作成しました。

異常だった 前回の採択

教科書の採択は、5人の教育委員の合議で行われます。採択方針では、藤沢市教科用図書採択審議委員会(校長や保護者等で構成。以下審議委員会)の答申、各中学校の教科用図書調査書(上記青四角内参照)、市民への教科書展示会開催での意見書などを踏まえて採択することになっていました。しかし、前教育長は歴史や公民の協議の冒頭、「各教育委員のご意見、ご協議を見守らせていただきたい」と発言し、不参加を表明。前市長により選ばれた教育委員3名が育鵬社を強く推し、3対1で歴史と公民両方が育鵬社と決められ、現場の声とはかけはなれた採択となりました。他に、国語や体育等でもかけはなれた採択がなされました。

2011年より前の採択では、必ずしも教育の専門家ではない教育委員は自らの見識を保ちつつ、審議委員会の答申等も尊重し、良識ある採択を行ってきました。藤沢の子どもたちのことをよく知る先生・学校の意見も傾聴した採択だったのです。

2011年の採択は異常な協議による異常な採択でした。

かつては
 良識ある
 採択が

学校調査書で積極的に意思表示し 先生・学校の意見を尊重する採択を実現しましょう

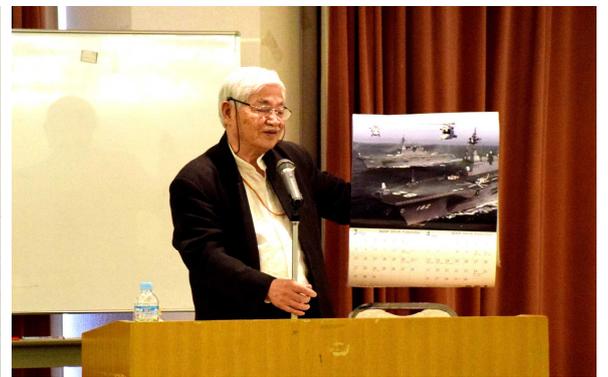
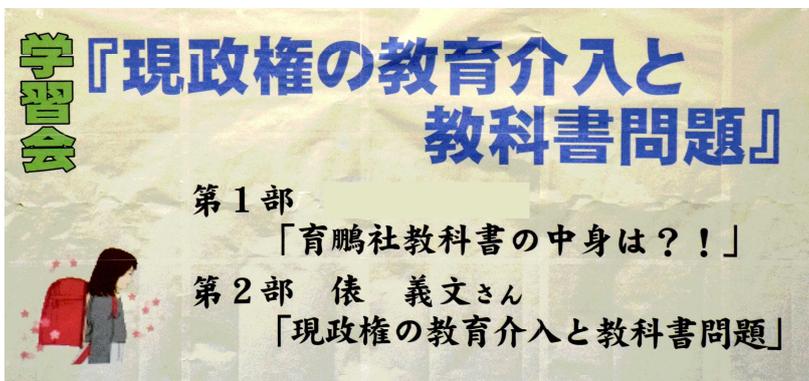
第二次世界大戦終戦後、戦前、教科書が国定され、国が教育内容を統制し国民を戦争に動員した反省から、国定教科書制度を廃止し、民間の教科書出版社が教科書を作成するようになりました。そして、各学校の教師が教科書を調査研究、比較し、学校ごとに採択していました。しかし、1965年から「教科書無償措置法」（1963年公布）による広域（共同）採択が行われるようになり、教科書採択は教育委員会が行うようになりました。

しかし、子どもと日常的に接し、子どもの状況を一番よく知り、教科書を使って子どもの学習を指導する現場教師こそ、子どもたちにふさわしい教科書を選ぶことができます。

これは子どもたちの学習権を保障することにもつながります。

ILO・ユネスコ協同の「教員の地位に関する勧告」（1966年）は次のように述べています。

教員は、職責の遂行にあたって学問の自由を享受するものとする。教員は、生徒に最も適した教具及び教授法を判断する資格を特に有しているので、教材の選択及び使用、教科書の選択並びに教育方法の適用にあたって、承認された計画のわく内で、かつ、教育当局の援助を得て、主要な役割が与えられるものとする。(61項)



みんなの教育・ふじさわネットは、3月7日藤沢市民会館で学習会を開きました。第1部では、育鵬社の教科書を使って授業をしている先生が、育鵬社教科書の特異性を解明しました。第2部は、子どもと教科書全国ネット21の事務局長俵義文さんが「現政権の教育介入と教科書問題」をテーマに講演しました。
☆講演のDVDおわけします(100円)。

俵さん講演会の感想文から

昔話を聞いているような70年前の記憶にびったり重なることに恐ろしくなりました。教育をはじめ、子どもたちの遊びも、マスメディアの文化、総ぐるみで戦争好きに育てていくのですね。ぜひ多くの方に現状を伝えていきたいと思っています。
ありがとうございました。

こんな教科書で教えられるのは本当に怖いです。小中学生の子を持つ親にリアルに感じてほしい。また、全体に自主規制的に内容がかたよってきているのも気になります。

1%のエリートのため90%の子どもたちが犠牲になり、そうなっているとも思わずにいるだろうこと。やはり自分で考える子どもたちを育てなければならないし、そのためには、考えられる親たちを助けなければならないと思いました。

日弁連の意見書には、きっぱり書いてありますね。

教科書採択にかかわる人はもちろん、子ども・教育にかかわる人 全てに読んでほしい。

育鵬社教科書の問題点を非常にわかりやすくポイントを絞って話していただき、ありがとうございました。7月の採択では、なんとしても阻止しなければなりません。

安倍政権の恐ろしい企みが、教育介入として着々と浸透しているー心配です。

詳細な資料によって、ブラックな背景がよくわかりました。今後の運動の方向も示していただき少し元気が出てきました。

今日のようなお話を、もっと大勢の人に聴かせたい、恐ろしい状況を少しでも多くの人に知ってもらい安倍政権を倒さなければならないと思いました。ありがとうございました。

知れば知るほど怖いですね。

「教育から変える」が、こうした教科書（育鵬社）の中味だと。やはり学習は大切ですね。防衛省カレンダーには背筋が寒くなりました。安倍政権の動き、そして維新の会の「憲法改正のために生まれた党」の国会発言にびっくり。

新たな運動体の言及は大変嬉しく元気をもらいました。

あきらめる訳にはいきませんよね。